

週刊

鋼構造ジャーナル

2020

11/9 NO. 2004

週刊(毎週月曜日発行)／購読料・1カ年52,500円、6カ月28,500円(税・送料込み)／昭和55年9月26日第三種郵便物認可／発行所・株式会社 鋼構造出版／発行人・田中貴士 編集人・大熊稔／本社・東京都中央区日本橋茅場町2-2-2 三恵ビル5階 〒103-0025 電話 東京03(5642)7011(代表) F A X 03(5642)7077／大阪支社・大阪市西区西本町1-14-3 本町コスモビル 〒550-0005 電話06(6536)2601(代表) F A X 06(6536)7603／札幌支局・札幌市白石区北郷4条3丁目2-21 〒003-0834 電話011(879)7666 F A X 011(873)3636／振込銀行口座・みずほ銀行京橋支店024-1044873／郵便振替口座 東京00130-9-13713

おもな記事

- 前年同期比15・2%減の約210万ト／20年度上期鉄骨需要量(2面)
- 推定鉄骨需要量は約35万ト／国土交通省9月着工統計(5面)
- 田中健二氏(高橋製作所社長)が黄綬褒章／国土交通省(6面)
- 20年度上期鋼橋受注は8万1257ト／日本橋梁建設協会(6面)
- 新社長登場／日鉄ポルテン・吉村康嗣氏……………(8面)

- 新理事長／宮崎県鉄構工業会・鴨林昌利氏……………(10面)
- 中野盛行氏の「退職記念祝賀会」開催／全国から約50人参加(12面)
- デシタルリボン・ファブリケーター版発売へ／優(千葉)(13面)
- 特集／非破壊検査2020……………(14～18面)
- 21年賀詞交歓会の開催を審議／東構協……………(24面)

28ページ



①講義内容をウェブで配信(右は青野塾長)②第9回(中・上級コース)の講義のようす

ウェブでリアルタイム配信、

東構塾

「現場施工」をテーマに講義

東京鉄構工業協同組合(東構協)の青年経営者委員会(会長 松田一朗・松田鋼業社長)が主催する若手経営者・技術者育成プロジェクト、「東構塾」(塾長 青野弘毅・元那須ストラクチャー工業)は10月31日、東京都中央区の東構協会議室で第7期第9回(中・上級コース)の講座を開いた。同塾では今夏から新型コロナウイルス感染拡大防止策として遠隔地でもオンラインで受講できるようにウェブ会議サービス「Google Meet」を使った。

講義が行われており、当日の講義風景はリアルタイムで塾生に配信された。

青野塾長は、「現場施工」をテーマに、①現場溶接(組立溶接を含む)②高力ボルト締め付け③現場安全作業について、それぞれの技術的なポイントや作業上の留意点などを解説した。特に現場での溶接施工のポイントとして、①現場施工要領書(溶接)の確認②作業環境③鋼種と溶接材料の組み合わせの管理④溶接方法(手順)の管理⑤入熱・パス間温度管理⑥溶接(U T・外観)管理⑦溶接技能者の管理——を挙げて説明した。

講義後の質疑では現場溶接の検査、柱の建方精度など日常業務における実務的な課題などで意見を交わした。

また、同塾では中・初級、中・上級コースに分けてこれまで講義を実施してきたが、コロナ感染防止策としてウェブ活用で合同開催も検討する。さらに第7期生の研修旅行を来年1月に行う予定とした。

20年度上期の鉄骨需要量

前年同期比15.2%減の約210万ト
需要減が鮮明、価格維持が焦点に

国土交通省の建築着工統計から試算した20年度上期の鉄骨需要量は、前年同期比15.2%減の約210万トとなった。都道府県別の結果は表の通りで、沖縄県(前年同月比33.9%増)、佐賀県(同25.9%増)、広島県(同18.4%)、山形県(同17.9%増)、高知県(同13.5%増)、北海道(同11.1%増)が10%を超える大幅な伸び率を示したが、京都府(同39.4%減)、滋賀県(同39.4%減)、熊本県(同39.1%減)、宮崎県(同38.4%減)、東京都(同35.0%減)がいずれも35%超の減少率となり、全体的に落ち込んだ。地域別では北海道(同11.1%増)と四国(同3.8%増)を除き全国で減少、特に首都圏は同19.2%減とこれまでの堅調な推移から一転し、大幅減となった。

「21年度も厳しいだろう」として回復は22年ごろとする関係者の声は少なくない。こうした需要の下押しで、足元、ゼネコンの受注競争に伴う指値や広域な相見積もりの乱発、海外ファブの積極的な起用などの動きが散見され、鉄骨単価の下落傾向が鮮明になっている。業界では価格の維持が最大の焦点となろう。

20年度上期の鉄骨需要量は210万3227ト(前年同期比15.2%減)となった。地区別の内訳は、北海道、四国の2地区で増加、首都圏は55万6352ト(同19.2%減)となった。地区別のシェアは、関東が33.5%で1位、前年2位だった近畿(シェア15.0%)が同3位の中部(同15.1%)と入れ替わった。ほかには、同7位の甲信越と同8位の北海道が、同9位の北陸と同10位の四国がそれぞれ入れ替わった。県別で増加したのは北海道、青森県、山形県、千葉県、岐阜県、三重県、兵庫県、島根県、広島県、香川県、愛

媛県、高知県、佐賀県、沖縄県の14道県で全国的には減少が目立つ結果となった。用途別にみると、堅調に示した18年度第4四半期感が払しょくできないが、観双方の意見があり不透明

2020年度上期都道府県別・建築着工面積

()は前年同期順位

	S造(m ²)	SRC造(m ²)	20年度上期(ト)	19年度上期(ト)	前年比(%)	シェア(%)	順位
北海道	892,637	32,326	90,880	81,824	11.1	4.3	7(8)
青森	202,174	769	20,256	19,021	6.5	1.0	30
岩手	156,420	648	15,674	17,097	▲8.3	0.7	36
宮城	333,281	78,073	37,232	45,316	▲17.8	1.8	17
秋田	133,738	6,100	13,679	14,395	▲5.0	0.7	41
山形	220,691	21,720	23,155	19,639	17.9	1.1	25
福島	319,581	2,324	32,074	44,615	▲28.1	1.5	22
東北	1,365,885	109,634	142,070	160,083	▲11.3	6.8	5(5)
茨城	602,760	0	60,276	81,457	▲26.0	2.9	11
栃木	390,702	11,998	39,670	46,290	▲14.3	1.9	16
群馬	482,293	0	48,229	53,859	▲10.5	2.3	13
埼玉	1,096,851	142,271	116,799	156,764	▲25.5	5.6	6
千葉	1,162,727	228,954	127,720	116,766	9.4	6.1	4
東京	1,747,559	115,612	180,537	277,790	▲35.0	8.6	1
神奈川	1,303,892	18,138	131,296	136,930	▲4.1	6.2	3
関東	6,786,784	516,973	704,527	869,855	▲19.0	33.5	1(1)
山梨	129,615	60	12,965	14,332	▲9.5	0.6	42
長野	339,242	0	33,924	44,407	▲23.6	1.6	20
新潟	334,843	129	33,491	38,272	▲12.5	1.6	21
甲信越	803,700	189	80,379	97,011	▲17.1	3.8	8(7)
富山	159,152	9,385	16,384	25,136	▲34.8	0.8	34
石川	219,806	14,031	22,682	27,960	▲18.9	1.1	26
福井	148,407	184	14,850	19,036	▲22.0	0.7	39
北陸	527,365	23,600	53,917	72,131	▲25.3	2.6	10(9)
岐阜	404,131	313	40,429	39,547	2.2	1.9	15
静岡	755,809	8,305	75,996	78,322	▲3.0	3.6	10
愛知	1,644,474	27,413	165,818	193,833	▲14.5	7.9	2
三重	355,701	191	35,580	33,935	4.8	1.7	18
中部	3,160,115	36,222	317,823	345,636	▲8.0	15.1	2(3)
滋賀	290,311	1,711	29,117	48,067	▲39.4	1.4	23
京都	432,681	12,443	43,890	72,426	▲39.4	2.1	14
大阪	1,220,921	18,581	123,021	156,969	▲21.6	5.8	5
兵庫	876,889	6,249	88,001	85,900	2.4	4.2	8
奈良	149,301	127	14,936	20,084	▲25.6	0.7	38
和歌山	158,926	0	15,893	19,857	▲20.0	0.8	35
近畿	3,129,029	39,111	314,858	403,303	▲21.9	15.0	3(2)
鳥取	70,519	0	7,052	7,354	▲4.1	0.3	46
島根	82,136	6,196	8,523	8,521	0.0	0.4	19
岡山	340,309	8,575	34,460	42,846	▲19.6	1.6	12
広島	563,615	63	56,365	47,592	18.4	2.7	33
山口	171,993	0	17,199	24,625	▲30.2	0.8	43
中国	1,228,572	14,834	123,599	130,938	▲5.6	5.9	6(6)
徳島	129,273	0	12,927	13,617	▲5.1	0.6	43
香川	182,781	0	18,278	16,693	9.5	0.9	32
愛媛	187,482	32,476	20,372	20,253	0.6	1.0	29
高知	99,803	8,938	10,427	9,190	13.5	0.5	45
四国	599,339	41,414	62,005	59,753	3.8	2.9	9(10)
福岡	812,733	22,606	82,404	99,685	▲17.3	3.9	9
佐賀	209,592	149	20,967	16,656	25.9	1.0	28
長崎	137,228	865	13,766	20,357	▲32.4	0.7	40
熊本	260,817	25,799	27,372	44,975	▲39.1	1.3	24
大分	127,931	1,418	12,864	15,172	▲15.2	0.6	44
宮崎	152,540	1,072	15,308	24,835	▲38.4	0.7	37
鹿児島	201,468	35,522	21,923	22,922	▲4.4	1.0	27
沖縄	176,112	19,113	18,567	13,870	33.9	0.9	31
九州・沖縄	2,078,421	106,544	213,169	258,473	▲17.5	10.1	4(4)
合計	20,571,847	920,847	2,103,227	2,479,008	▲15.2	100.0	—
首都圏	5,311,029	504,975	556,352	688,250	▲19.2	26.5	—

Insistence of This week

今週の主張

需給見極め、冷静な対応を

前年同月を下回る状況が続いている。上半期(4~9月)の累計は前年同期比約15%減の210万ト。この減少率を前年度の年間実績(457万ト)に単純に当てはめると、20年度の年間需要量は386万トという計算になる。

小紙が創刊した1980年以降、年間鉄骨需要量が400万トを下回ったのは09年度の391万トだけだ。08年に生じたリーマン・ショックの影響で国内民間設備投資が著しく減退し、鉄骨需要も大幅

に減少。少ない需要を巡ってゼネコン間さらにファブ間で受注競争が激しさを増し、まさにパニック状態に陥った。結果、鉄骨単価は瞬く間に下落し、それまでトン23万円前後で推移していた中小S造物件の鉄骨相場が一気に5万円以上落ち込む事態となった。

需要低迷が続く現在、こうした状況の再来を懸念する業界関係者も少なくなくなるが、当時と現在の業界環境は大きく異なる。

90年代後半から07年度までの鉄骨需要は年間640~780万ト前後で推移し、各年の需要と鉄骨相場の推移などから、リーマン・ショックが発生した08年時点のフ

ァブ業界の供給能力は650万ト前後だったと推定される。そうした中で生じた市場の急激な悪化。09年度の需給ギャップは極めて大きく、需要が供給量の6割程度にとどまる状況だったと考えられる。

方や近年の鉄骨供給能力は年間500万ト前後とされ、需要が457万トにとどまった19年度もファブ業界にとって大きな不足感はなかった。現実味を帯びる「年間需要400万ト割れ」。確かに衝撃的な数字ではあるが、仮にそれが現実となっても、関連業界が前回のようなパニックに陥らずに需給バランスを冷静に見極め、慎重な対応に努めることが肝要だ。

生産実績は9万1508ト めっき鉄筋・電力・通信などが増加 9月のめっき生産実績

日本溶融	8トとなった。シェアの大きい建築材が同10・4%減	北陸(31社)が同8・6%減の2万3903ト、中国(6社)が同3・3%減の1万1942ト、九州(8社)が同8・1%減の1万931ト。全7地区で減少となった。
重鉛鍍金協会は、会員82社の9月の溶融重鉛めっきの生産実績をまとめた。それによると、全体では前年同月比12・3%減の9万1508ト、関西減の1万7089ト、関西	3308ト、東北(3社)が同20・3%減の3111ト、関東(19社)が同13・5%減の2万1224ト、中部(10社)が同21・1%減の1万7089ト、関西	同0・8%増の9056ト、めっき鉄筋が同8・9%増の207ト、鉄道が同35・4%増の1044トと増加した。

一方、仮設機材、一般鋼材、継手、ファスナーなどは減少した。

全構協御指定品

JIS K 5674 2種 **F☆☆☆☆**

鉛・クロムフリーさび止めペイント

水性グリーンボーセイ速乾

DNT 大日本塗料

カドピタ

3Dに曲がる!

傾斜角度が大きい製品に対応するため、従来の溝加工を改良し、裏当金の幅方向にも曲げる事が出来るようにしました。

裏当金 取付イメージ

SUNOX®

溶接副資材総合メーカー

QUALITY 品質 DEVELOP 開発 HUMAN 人材

Your assistant for weldings

お問い合わせ先

株式会社 スノウチ

http://www.sunouchi.co.jp

本社・工場

〒279-0024
千葉県浦安市港 46
TEL: 047-353-8751
FAX: 047-353-5381

大阪営業所 / 西日本営業所